

令和6年度佐潟周辺の 植生調査等について



令和7年3月27日

(公財)新潟県都市緑花センター 久原 泰雅

希少種とその生育状況

【多年草】

- ・ヤナギトラノオ 自然生態観察園、野鳥観察舎前、上潟全域
- ・シラスゲ 下潟北側の道路沿い
- ・スジヌマハリイ 上潟の大清水付近
- ・デンジソウ 上潟の大清水付近（移植）
- ・ハンゲショウ 自然生態観察園、下潟南西側
- ・エゾミソハギ 自然生態観察園、商工会前
- ・ミズタガラシ 自然生態観察園

【一年草】

- ・サデクサ 湿地センター前
- ・オニバス 潟内
- ・ミズアオイ 中ん橋付近

希少種とその生育状況

【多年草】

- ・ヤナギトラノオ (県・市：Ⅰ類)
- ・スジヌマハリイ (県：Ⅱ類・市：Ⅰ類)
- ・デンジソウ (環境省：Ⅱ類、県・市：野生絶滅)
- ・ハンゲショウ (県：Ⅱ類・市：Ⅰ類)

⇒ 比較的安定して生育。
暗くならないように適度に草刈りが必要。

希少種とその生育状況

【多年草】

- ・ シラスゲ (県：地域個体群、市Ⅱ類)
- ・ エゾミソハギ (市：Ⅱ類)
- ・ ミズタガラシ (県・市：Ⅰ類)

⇒ 個体数少。

積極的な保全が必要。
(周囲の草刈りと保護)

希少種とその生育状況

【一年草】

- ・サデクサ (県・市：Ⅱ類)
- ・オニバス (環境省・県・市：Ⅱ類)
- ・ミズアオイ (環境省：NT・県・市：Ⅱ類)

⇒ 個体数少。

積極的な保全が必要。

(草刈りや攪乱による環境創出
と保護、種子採集と栽培)

分布に変化が見られたその他の植物



下潟のハス

ハス復活プロジェクト（佐潟と歩む赤塚の会）の活動により、6年ぶりにハスが復活



エビモ

生態園等で確認されていたエビモが見られなかった



上潟のハス

上潟のハスの激減が確認された



マコモ

分布の減少が懸念される

分布に変化が見られたその他の植物



⇒ 今年も生育に変化なし。水質改善や外来種対策により改善を期待。

2018年に下瀉で消失したハスの生育状況

- ・ 2022年よりハス復活プロジェクト開始
- ・ ハスの栽培と瀉への移植（2年目）
- ・ 水質改善と攪乱を目的とした水位管理と水抜きの実施（2年目）
- ・ カメによる食害の確認、駆除開始（1年目）

2018年に下瀉で消失したハスの生育状況

・ハスの栽培と瀉への移植（2年目）



昨年育てた苗の植付け（6月7日）



歩む会とEホームによる枠の設置

2018年に下瀉で消失したハスの生育状況

・ハスの栽培と瀉への移植（2年目）



10月24日生育状況

2018年に下潟で消失したハスの生育状況

- ・ 水質改善と攪乱を目的とした水位管理と水抜きの実施（2年目）



R6.5.13～6.4佐潟の水抜きを実施



ハスをはじめ、ヒシやオニバスなどの水生植物が数多く発芽（6月7日）

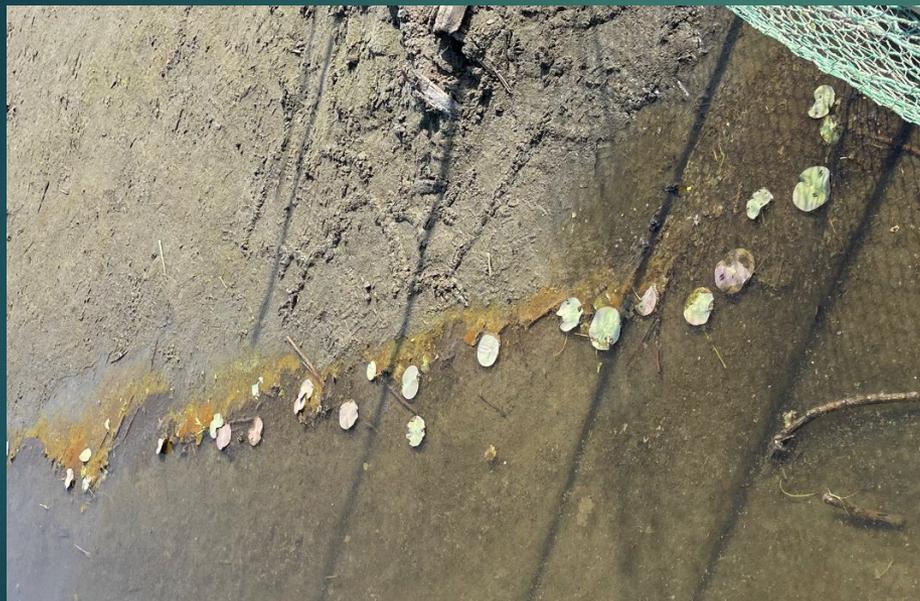
2018年に下瀉で消失したハスの生育状況

- ・ カメによる食害の確認、駆除開始（1年目）



2018年に下瀉で消失したハスの生育状況

・カメによる食害の確認、駆除開始（1年目）



切られたハスの葉が流れ着いているのを確認（6月14日）



カメによる食害と考えられた

2018年に下瀉で消失したハスの生育状況

- ・ カメによる食害の確認、駆除開始（1年目）

⇒ 夏から始められたため、ハス等水生植物は全て食害に遭った後となった。

- 5月上旬からの駆除が必要（駆除継続）

- クサガメ、アメリカザリガニによる影響も評価が必要か

2(1) アカミミガメについて(佐潟での確認(井上信夫))

調査年度	1999		2000		2008			2024
	下潟	上潟	下潟	上潟	下潟	上潟	下潟水路	下潟
クサガメ	46	16	14	2	23	37	1	464
アカミミガメ	0	0	2	0	0	0	0	545
アメリカザリガニ	28	27			79	32	10	1

1999年調査ではクサガメのみが捕獲されているが、ハス等の食害は目立たなかった。アカミミガメは2000年に成体2個体がはじめて捕獲されたが、この時点では新潟市内ではまだアカミミガメの繁殖が確認されていない。

2008年調査では、アカミミガメが1個体も捕獲されていない。

2024年(今回捕獲調査)ではアカミミガメ捕獲数がクサガメを上回っており、十数年の間に急激に増殖したことが注目される。(井上信夫)

(新潟縣天産誌. 中村正雄編. 中野財團, 1925.) では、クサガメも県内では確認が無い。

2018年に下瀉で消失したハスの生育状況

・ カメによる食害の確認、駆除開始（1年目）

⇒ 他の研究でもクサガメによるハスの食害は少ないとする報告が多い。しかし、食べないわけではない。

（カメの胃の内容物の比較）

- ・ アカミミガメ：種子植物 35.5%（藻類50%）
- ・ クサガメ：種子植物 34.0%（動物37%）

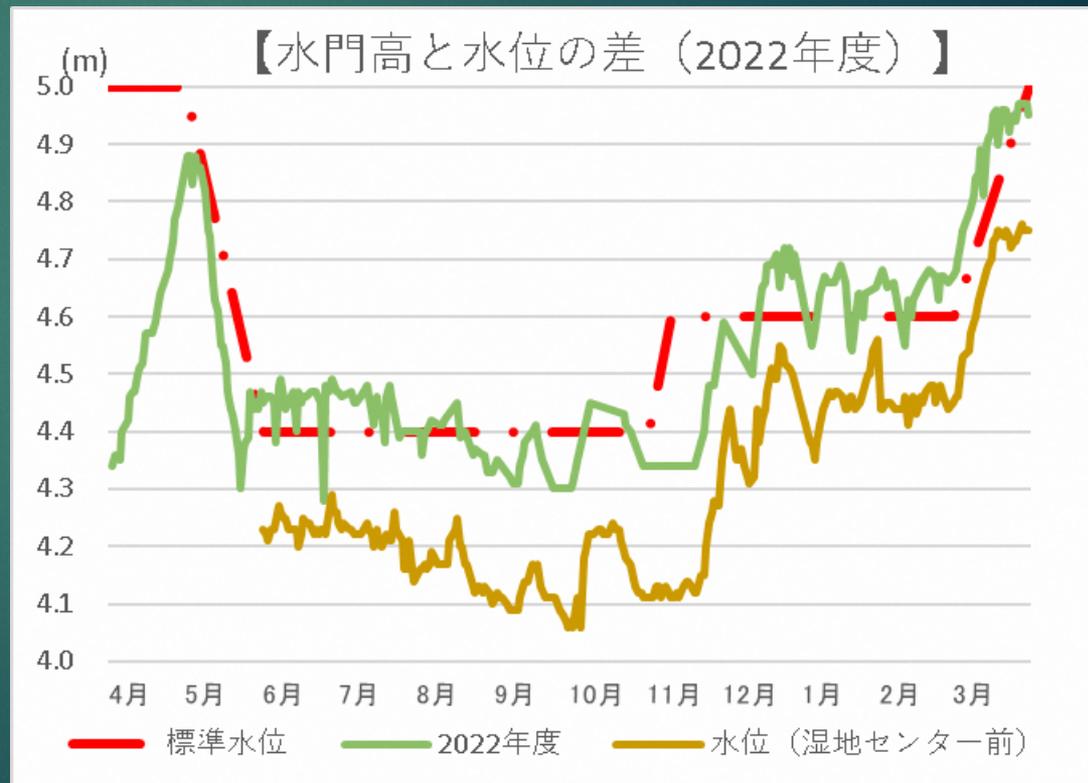
（ミシシッピアカミミガメとクサガメの消化管内容物分析（三根・谷口・飯冨・亀崎：神戸市立須磨海浜水族園））

水位管理：水門の水位表示と基準水位との差異



さかたんのハス田の様子
以前より明らかに水位が低い様子
が確認された。

水門の水位表示と湿地センター前の水位表示で約22cmの差異が確認された。



今後の管理に関する提案

1. 希少植物の積極的な保護、増殖、環境創出

一年草を中心に、種子採集による保護増殖や生育環境の改善が望まれる。

2. ハス群落の復元

外来種による食害の影響が大きいため、枠内での栽培に限る。

3. 外来種対策

水生植物の食害を防ぐため、アカミミガメの5月からの駆除作業が必要。

クサガメやアメリカザリガニの数量調査、影響評価が必要。

水位低下時の水生動物調査も望まれる。

4. 水位管理

水質改善や攪乱のための水抜きは意義があると思われるが、埋土種子の枯渇を招きかねない。水位調整について検討が必要。